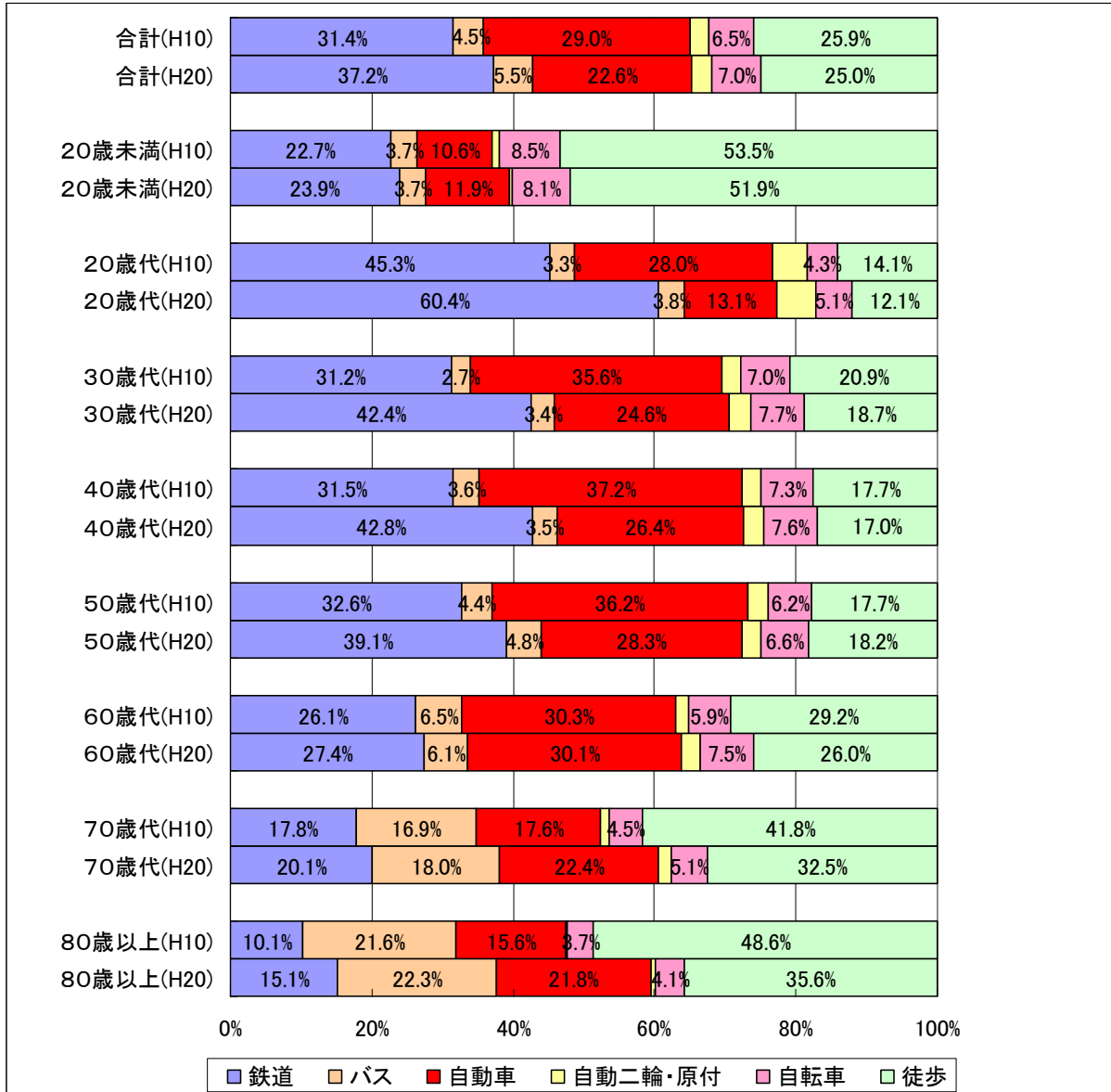


第5回東京都市圏パーソントリップ調査

横浜市版 独自集計結果（速報）

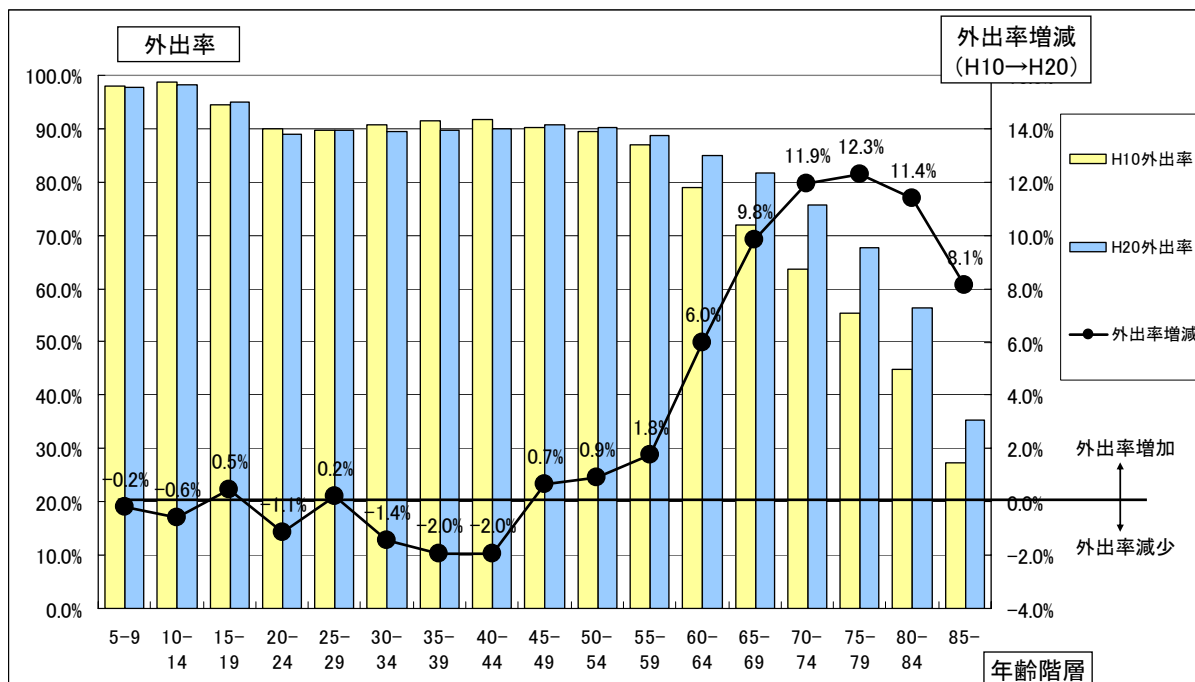
1 年齢階層別代表交通手段分担率（横浜市民、平成10年、平成20年の比較）



20歳代の代表交通手段は、60.4%が鉄道であり10年間で15.1ポイント上昇する一方、自動車は13.1%と14.9ポイント低下しています。20歳代から50歳代の幅広い年齢層で、鉄道の分担率が上昇し自動車の分担率が低下するという傾向を示しています。

注) 代表交通手段：一つのトリップでいくつかの交通手段を乗り換えた場合、その中の主な交通手段を代表交通手段と言います。主な交通手段の集計上の優先順位は、鉄道、バス、自動車、自動二輪・原付、自転車、徒歩の順としています。例えば、駅まで自動車で移動し、鉄道で通勤する場合の代表交通手段は鉄道になります。

2 年齢階層別外出率と外出率の増減（横浜市民、平成10年、平成20年の比較）



<外出率>

5歳から19歳までの年齢層は外出率が95%以上となっており、20歳から59歳までの年齢層は、概ね外出率が90%程度となっています。60歳以上の年齢層では年齢が高くなるにつれて、徐々に外出率が低下する傾向にあります。

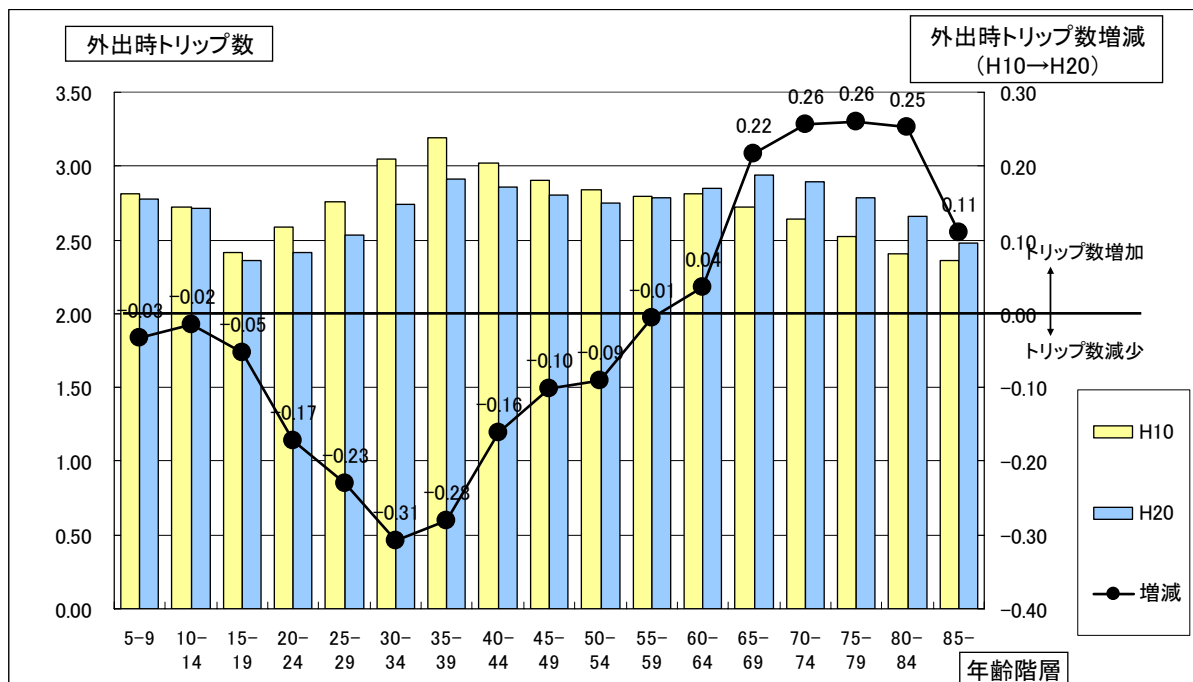
<外出率増減（H10→H20）>

40歳から44歳の階層以下の年齢層では、一部の年齢層を除いて、H20年の外出率がH10年の外出率より低下しています。一方で、45歳以上の年齢層では、外出率が上昇傾向となっており、70歳から84歳の年齢層ではH10年と比較して10ポイント以上の上昇となっています。

この10年間で高齢者の外出機会が増加していると言えます。

注) 外出率：調査対象日に外出した人の人数を人口で割った数字として求めています。

3 年齢階層別外出時トリップ数（横浜市民、平成10年、平成20年の比較）



<H20外出時トリップ数（一人当たり）>

外出時トリップ数は、15歳から19歳の年齢層で2.36回と最も少なく、35歳から39歳の年齢層で2.92、65歳から69歳の年齢層が2.94と両年齢階層でピークになります。

<外出時トリップ数増減（H10→H20）>

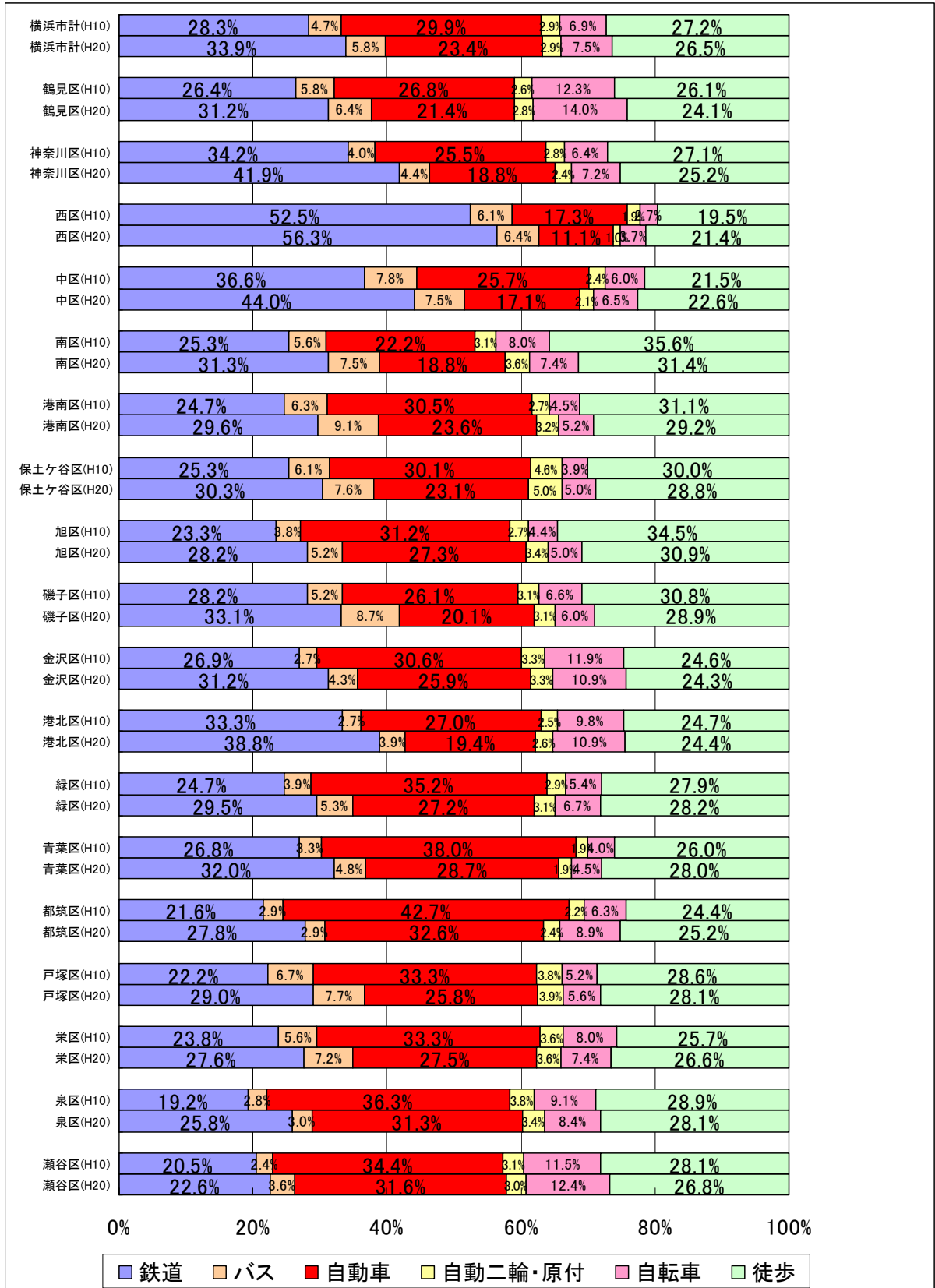
55歳から59歳の階層以下の年齢層では、すべての年代において外出時トリップ数が低下しており、特に30歳から34歳の年齢階層が最大の0.31回の低下となっています。

一方で、60歳から64歳の階層以上の年齢層では、すべての年代において外出時トリップ数が上昇しています。

外出した際に、多くの目的地に立ち寄る行動パターンが、高齢の世代で増加していると言えます。

注) トリップ数: 人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動する単位をトリップといい、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと数えます。1日に多くの目的地に立ち寄る度合いを表します。例えば、自宅から会社に通勤し、勤務後会社近くで買い物した後に帰宅する場合は、3トリップとなります。

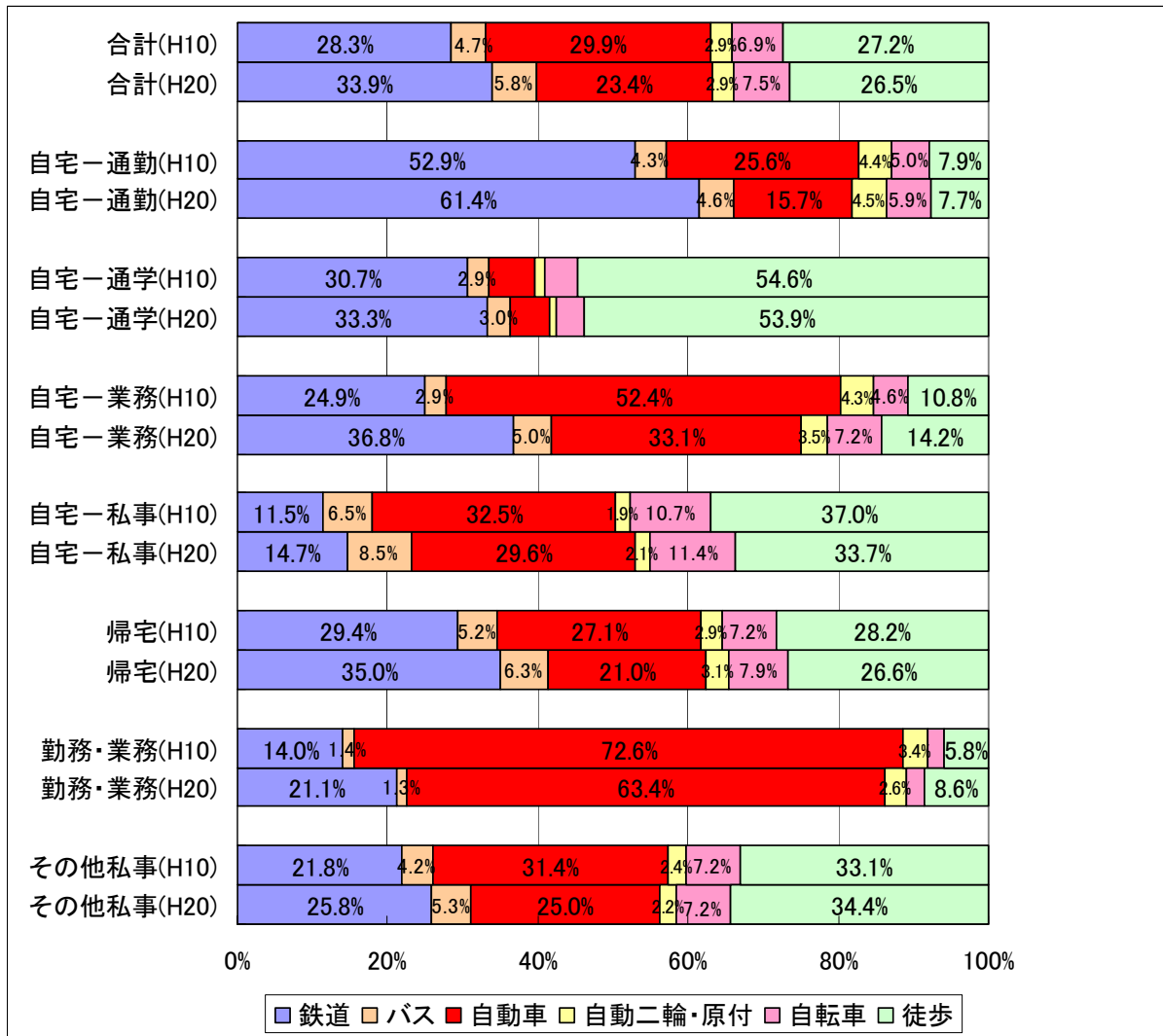
4 18 区別代表交通手段分担率（横浜市内、平成10年、平成20年の比較）



鉄道の分担率は高い順で、西区、中区、神奈川区となっています。自動車の分担率は高い順で、都筑区、瀬谷区、泉区となっています。

18区すべてにおいて、鉄道の分担率が上昇し、自動車の分担率が低下しています。

5 目的別代表交通手段分担率（横浜市内、平成10年、平成20年の比較）



通勤目的のトリップでは、鉄道の分担率が最も高く 61.4%、次いで自動車が 15.7% となっています。この 10 年間では、鉄道が 8.5 ポイント上昇し、自動車が 9.9 ポイント低下しています。

すべての目的で、鉄道の分担率が上昇し、自動車の分担率が低下しています。